

消防団等充実強化アドバイザーとの意見交換会を開催しました

地域防災室

総務省消防庁では、全消防団員数が初めて80万人を下回る危機的な状況であることを受け、消防団等充実強化アドバイザーを招へいし、消防団員確保に関する意見交換会を実施しました。意見交換会は、東京会場と福岡会場とで2回開催し、東京会場は令和5年1月19日、福岡会場は同月25日に実施したところです。

この意見交換会において、消防団等充実強化アドバイザーから出された主な意見は次のとおりです。

なお、消防団等充実強化アドバイザーは、地方公共団体からの要請に基づき派遣し、消防団への加入促進、消防団の充実強化及び活性化等の方策等について助言を行う制度です。消防団の充実強化を検討している地方公共団体においては、ぜひ積極的に活用してください。詳細は、総務省消防庁地域防災室へお問い合わせください。

意見交換会における主な意見

(消防団運営の見直し)

- 住民に入団を訴えかけるばかりではなく、消防団自身も魅力ある消防団でなくてはならない。そのため、消防団の中で若い人が意見を言いやすい場を作るようにしていくべき。
- 消防団員がその友人に直接声をかけるなどの波及効果が期待できるため、消防団員のモチベーションを高めるような訓練や研修、意見交換会を行ってはどうか。
- 消防団員としてのスキルをもって活動できる人を増やす取組も必要ではないか。
- 消防団員は、本業を別に持っているので、長期出張や育児などの際にも辞めずにすむよう休団制度というのを前面に押し出していくべきではないか。
- 避難所開設をしたときの支援を行うなど、自主防災組織などの地域の防災リーダーと連携した取組を行っていくべきではないか。

(幅広い住民の入団促進)

- 女性団員がいない消防団が全体の1/4もあるので、消防団等充実強化アドバイザーが要望を待たずに女性

消防団員の必要性や導入の方法などをアドバイスしてはどうか。

- 男女共同参画といいながら、男社会が根づいていると思われる。そこをどうにか変えていかないと、女性団員の増加はしているものの、消防団の活性化に繋がらないのではないか。
- 学生団員は、卒業と同時に辞めてしまうので、継続して消防団員に留まれる工夫が必要。
- 県立大の学生へ入団を働きかけるために、県、大学事務局、消防団が連携し、新入生のガイダンスで消防団の話をする時間をもらうことができた。こうした例を参考に連携を進めていくべき。
- 大学生への入団促進にあたって、消防職員や市町村職員の中にいる大学OBが出向いて募集する取組が有効。
- 保育士さんが消防団員になって、防災関係の知見を得たら、園児募集をかけるときのアドバンテージになるので、保育園との連携は、特に有効であると考えられる。
- 事業者や大学と連携するためには、市町村、消防本部、それから消防団員が連携しながら、一緒になって切り開くのがベストである。
- 今は、夫婦共同で育児をしているので、家族で参加できるような消防団活動を考えてはどうか。
- 地域住民が、消防団がどんなことをしているのかわからないという側面がある。そのためイベント等の機会を通じて、消防団を知ってもらう機会を設けてはどうか。

(防災教育)

- 子どもやその保護者に消防団活動を理解してもらうために、PTA活動と連携し、学校で消防団に関する講義をするなどしてはどうか。
- 消防団員が防災教育として授業に行くと、児童・生徒の保護者で消防団員である者が多く参加している。児童・生徒からこの授業のことを聞いて、入団した人もいる。教科書に消防団についても記載するなどの施

策を進めていくべきではないか。

- ポスターなど派手な広報も必要だが、地道な加入促進や少年消防クラブや高校生にアプローチし、将来の地域防災の担い手を育てていくべき。

(消防団事務担当職員に対する取組)

- 消防団確保に貢献した市町村の担当者に対して表彰・評価する制度を創設し、逆に、消防団員を大幅に減少させた市町村を全国公開するペナルティーを科すなど、市町村の担当者が入団促進に向けて動きとなる仕組みを作ってはどうか。
- 消防団事務担当職員間で情報交換を行えるような取組を行ってはどうか。
- 市町村や消防機関の消防団担当職員に対する教育を強化してはどうか。

(その他)

- 消防団員は、火災現場で活動するが、お酒を飲む機会が多いというような昔のイメージがあるので、そうしたイメージを払拭しなくてはならないのではないかな。
- 消防団に対する財政措置を拡充しても消防団の方はほとんど知らない。消防団の組織がもう少ししっかりした組織づくりをしないといけないのではないかな。
- 緊急時の対応が取りやすいよう、詰所へのWi-FiなどのICT環境を整備してはどうか。
- 消防団活動には家族の理解が不可欠であるので、家族への手当を制度化してはどうか。

消防団等充実強化アドバイザーの派遣

○概要等

地方公共団体等の要請に基づき、消防団等充実強化アドバイザーを当該地方公共団体等に派遣して、消防団への加入促進、消防団の充実強化及び活性化等の方策等について助言を行う制度。

アドバイザーは、地方公共団体等の推薦を受け、消防団の充実強化等に関する豊富な知識又は経験を有する者を認定。

○派遣実績

令和4年度：50団体、令和3年度：22団体、令和2年度：7団体、令和元年度：27団体

消防団等充実強化アドバイザー							
	都道府県	氏名	所属団体・役職名		都道府県	氏名	所属団体・役職名
1	青森県	佐藤 裕貴子	(元)青森市青森消防団 本団分団長	14	大阪府	大森 良男	(元)堺市消防局・堺市高石消防署 署長
2		田中 茂子	(元)青森市青森消防団 本団分団長	15	岡山県	左居 喜次	(元)美咲町消防団長
3	茨城県	米川 幸雄	阿見町消防団・顧問	16		葛原 佳史	美咲町消防団員
4		山本 みゆき	(元)阿見町消防団女性部・部長	17	広島県	神村 登紀恵	広島市西消防団 副団長
5		伊藤 好	(元)筑西広域市町村圏事務組合消防本部 消防次長	18		柳迫 長三	一般社団法人ひろしま防災減災支援協力代表理事 広島市防災士ネットワーク代表世話人 (元)広島市消防局職員
6	群馬県	折茂 綾子	藤岡市消防団第10分団 部長	19		平田 信夫	(元)広島市安佐南消防団 団長
7	千葉県	田邊 茂	長生都市広域市町村圏組合消防団 消防団長	20	勝宮 章	(元)呉市消防局長	
8	神奈川県	丸山 正美	(元)横浜市消防局総務部消防団課/保土ヶ谷消防団本部アドバイザー	21	愛媛県	石丸ちえみ	松山市消防団 部長
9		堀下 清美	(元)横浜市消防局女性消防団員指導者	22		玉井 公	松山市消防局 地域消防推進課 主幹
10	新潟県	丸山 洋太郎	長岡市消防団本部 副分団長	23	福岡県	太田 和弘	北九州市若松消防署 警防課 警防第三担当課長
11	長野県	五十嵐 幸男	公益財団法人 長野県消防協会 参与	24		内村 美由紀	北九州市八幡東消防団 副団長
12	愛知県	加藤 實	成蹊大学非常勤講師	25	熊本県	長濱 美香	平国女性分団 団員(ラッパ隊長)
13	三重県	櫻川 敬子	津市消防団 津方面団デージャー分団 分団長				

問合せ先

消防庁国民保護・防災部防災課地域防災室
TEL: 03-5253-7561